

メッセージアウトライン 詩篇116：1～19「主への感謝」

[1-2]祈りが聞かれるという体験を持つことは、その人を常に主との交わりに進ませる力となる。

[3-4]祈りが聞かれる前の作者の苦しみの様子。しかし、そのような苦しみの中にある時こそ信仰者は真剣に主に祈る者となる。

[5-7]主が彼を苦しみと悲しみの中から救い出してくださったことに対する感謝と賛美。「私のたましいよ。おまえの全きいこいに戻れ」…主が苦しみから救い出してくださったので平安が与えられたから。主は彼に「良くしてくださった」のである。

[8]主が彼に良くしてくださったことの内容。

[9]死、涙、つまずきから救い出されたことからくる確信を、「私は…主の御前を歩き進もう」という決意として表明している。

[10-11]過去の体験と、悩み苦しみの中にあつた時の心境の告白。

何度も人に裏切られて悩み苦しんだが、不信仰に陥ることなく主を「信じた」。

[12-13]もう一度、彼は今までの歩みを振り返ってみて主がことごとく良くしてくださったことを覚え、何を主にお返ししようかと考える。そして彼は主に感謝と賛美をささげようと願う。

[14]彼は口先だけではなく、その誓いを主に果たそうと決意する。

「御民すべてのいる所で」…神の民、信仰者のいる所で。礼拝における感謝と賛美はこのような意味がある。

[15]信仰者の死はたとえ世から尊ばれ評価されなかったとしても、主は一人一人のことをよく知っておられ、その死は主の目に尊いことなのである。

[16-17]自分が主のしもべであることと、改めて主に感謝し、賛美することの告白。これらは主への礼拝の大切な要素である。

[18-19]18節は14節の繰り返し。繰り返しは決意の強さのあらわれ。

「主の家の大庭」…神殿の大庭のこと。ここにいけにえをささげる祭壇があり、礼拝のために多くの人々が集まる。神殿こそエルサレムの中心となる場所であった。

「ハレルヤ」…主をほめたたえよ。

この一年、世界で様々な出来事があり、世界中が揺り動かされてきた感がある。私たち信仰者もいろいろな苦しみ、困難、悲しみなどを経験してきた。しかし、主は私たちの祈り、叫びに答えて守り、導きを与えてくださり、今日ここまで歩んでくることができてまことに感謝である。そして最も大切なことは、私たちはイエス・キリストによって死と滅びよりの救いというすばらしい恵みを受けているということである。私たちはこのことを覚えつつ、これからも教会に集い、一致して感謝と賛美の礼拝をささげ、新しい年もそのようにして主に従っていく者になりたい。